科目名			担当教員	
発達心理学			中村　修	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FD3543	2	1	RorSR（講義）	2年以上
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、「生涯発達心理学」（科目コード：FD2502・FD2563、4単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのでしょうか？　そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのでしょうか？　さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのでしょうか？

この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探していくことになります。発達心理学は「生涯発達心理学」と呼称されることがありますが、この名称に示されるように、発達する期間は「生涯、一生の間」と考えるのが現在の通例です。では生涯という視点で人を理解するとはどのようなことでしょうか？「子ども」「大人」「高齢者」といった年齢区分ごとの理解に留まらず、「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人を理解するということを考えてみましょう。

■到達目標

１）発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。
２）幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。
３）発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。
４）発達障害等非定型発達についての基礎的な事項を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著『問いからはじめる発達心理学　改訂版ー生涯にわたる育ちの科学』有斐閣、2024年

（最近の教科書変更時期）2025年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を必ず持参ください。

【参考図書】

１）二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編『ガイドライン　生涯発達心理学（第２版)』ナカニシヤ出版、2012 年
２）岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房、2013 年
３）鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ著『生涯発達心理学　認知・対人関係・自己から読み解く』有斐閣、2016 年
４）開一夫・斎藤慈子編著『ベーシック発達心理学』東京大学出版会、2018 年
５）本郷一夫編『発達心理学　公認心理師の基礎と実践』遠見書房、2018 年
６）高橋一公・中川佳子編著『生涯発達心理学 15 講（第３版)』北大路書房、2019 年
７）林創編著『発達心理学　公認心理師スタンダードテキストシリーズ 12』ミネルヴァ書房、2019 年
８）水野里恵著『発達心理学　公認心理師ベーシック講座』講談社、2021 年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

発達という概念はつかみやすいようでとらえづらいかもしれません。スクーリングでは、発達という概念のそもそもの部分の説明と、生涯を区分した発達期ごとの説明を行っていきますが、区分してあると言っても一人の人間が生涯にわたって発達していくという「つながり」はあるわけです。前後の時期のつながりもあれば「積み重なっていくもの」もあるでしょう。せっかくのスクーリングの機会ですから、教科書のページ通りではなくあちこち行ったり来たりしながら講義することで、「区分しつつ、つなげて理解する」という背反したことを目指していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達するとはどういうことか、何が発達をもたらすのか	発達とはどういうことを意味するのかについて、昔の発達心理学と現在の生涯発達心理学での考え方の違いを明確にする。 また、発達の要因として遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。
2	乳幼児期①：乳児ー養育者間コミュニケーションと愛着の発達	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解を行う。 特に愛着の発達について、愛着形成の過程及び愛着の個人差について理解する。
3	乳幼児期②：認知機能の発達	代表的な発達理論の 1 つであるピアジェの発達理論に基づいて、特に幼児期の認知発達について理解する。
4	青年期の発達：自己認知とアイデンティティ	自己の発達について、エリクソン及びマーシャの言説に基づき、アイデンティティとか何かを理解する。
5	成人期：キャリア発達	特にキャリア発達という観点からの成人期の発達を理解する。 特に、①アイデンティティの再体制化とは何か、②世代性とは何かを理解する。
6	老年期：サクセスフル・エイジングとは	老年期における認知機能の変化及び補償、パーソナリティの発達、サクセスフル・エイジングの条件について理解する。
7	発達のつまずき	発達障害とその臨床・支援について概略的な理解を行う。
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料と教科書をもとに、板書をしながら進めます。具体的な事例を提示する際には動画を用います。

■スクーリング　評価基準

特に到達目標記載内容についての理解を問います。スクーリング中に学んだことを活用して答えなければならない問題を出題します（ノート、教科書、配布資料持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

スクーリング講義内容として示した９回は、基本的に教科書の章単位でまとまりが作られています（複数章にまたがる場合があります）。どの回がどの章なのか事前に対応させる作業を行い、それぞれの回のキーワードをチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか①（序章、1 章―1、2）	生涯発達はどういうことと考えられているか キーワード：バルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	発達とは何か、現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。
2	発達するとはどういうことか②（1 章―3、4、5）	発達は何によってもたらされるか キーワード:遺伝的要因､環境的要因､相互作用、ブロンフェンブレナー、生態学的システム、行動遺伝学	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
3	ピアジェの発達理論（3 章）	ピアジェの発達理論の全体像と特に感覚運動期 キーワード：ピアジェ、シェマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の 1 つであるピアジェの発達理論について、 ②　基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。 ③赤ちゃんが持つ能力を理解する。
4	乳児期①:アタッチメントの発達（4 章）	アタッチメントの発達 アタッチメント、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感、内的作業モデル	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何かについて理解する。 ②アタッチメントの発達の流れについて理解する。 ③アタッチメントの個人差について理解する。
5	幼児期①:言葉と表象（5 章）	言葉の発達の基盤 キーワード：表象、ごっこ遊び、喃語、共同注視、初語、統語、外言、内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。

6	幼児期②：自己の発達 （6 章）	自己の発達の理解、特に自己の芽生えについて キーワード：自己感覚、自己、第一次反抗期、自己主張期、概念的自己、自己制御	①自己の芽生えとはどういうことか理解する。 ②自己にもさまざまな側面があることを理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について理解する。
7	幼児期③：社会性の発達と心の理論 （7 章―1、2）	社会性の発達、特に他者の意図の理解について キーワード：心の理論、誤信念課題、うそ、道徳的判断、コールバーグ、共感性、向社会的行動、実行機能	①心の理論とはどういうことか理解する。 ②道徳的判断の発達について理解する。 ③　共感性の発達について理解する。
8	児童期①：認知・思考の発達 （8 章）	児童期の認知機能の発達、特に脱中心化について キーワード：前操作期、自己中心性（中心化）、保存課題、3 つ山課題、脱中心化、具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき、児童期の思考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理解する。
9	青年期の発達①：自己認知（9 章―1、2、3，4）	青年期の発達、特に青年期初期の自己理解の変化という観点から キーワード：第二次性徴、思春期スパート、自己理解、自我体験、時間的展望、青年期の自己中心性	①青年期における身体的変化の特徴について理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否定的感情の高まりについて理解する。
10	青年期の発達②：友人関係（7 章―3、9 章―5）	青年期の発達、特に同年代他者との関係から キーワード：友人関係、社会的比較、関係性攻撃、恋愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解、自己形成にどのように影響するか理解する。
11	青年期から成人前期へ：アイデンティティの発達 （10 章）	青年期の発達、特にアイデンティティの形成という観点から キーワード：エリクソン、アイデンティティ、モラトリアム、マーシャ、アイデンティティ地位、MAMA サイクル	①エリクソンの言説に基づき、アイデンティティとか何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ステイタス論」に基づき、アイデンティティの形成プロセスについて理解する。 ③成人期以降のアイデンティティの変化について理解する。
12	成人中期・中年期：世代性、職業・キャリア発達 （11 章）	成人中期以降の発達、特にキャリア発達の観点から キーワード：生成継承性（世代性）、キャリア発達、多重役割	成人中期以降の発達的変化について、 ①生成継承性（世代性）とは何かを理解する ②キャリア発達とは何かを理解する。 ③多重役割とは何かを理解する。
13	高齢期：老いの意味と認知機能の変化 （12 章）	高齢期の発達、特に認知機能について キーワード：エイジズム、流動性知能、結晶性知能、超高齢期、補償、最適化、知恵、サクセスフル・エイジング	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達的変化について理解する。 ③認知機能の補償とは何かを理解する。
14	発達のつまずき① （13 章）	発達のつまずき、特に神経発達症（発達障害）について キーワード：生物心理社会モデル、神経発達症（発達障害）、自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症（学習障害）、個別支援、環境調整、二次障害	①神経発達症（発達障害）の正しい定義を理解する。 ②神経発達症（発達障害）の臨床・支援について理解する。

15	1 回目から 14 回目までの振り返り	生涯にわたる発達的変化のまとめ	①幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ②幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「認知機能」「自己」「愛着」「社会性」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者―子相互作用」の重要性についてまとめよ。 その際、少なくとも「愛着の発達」「言語の発達」という 2 つの側面からまとめること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書 1 つをとってもある事柄が説明されている箇所は 1 か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

この課題は「4 章」「5 章」が中心となりますが、「2 章 3」「13 章 3」なども踏まえる必要があります。「愛着の発達」については、ボウルヴィが提唱したアタッチメント概念の説明が中心になります。それに加えて、「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己」「養育者と子の安定した関係をベースにして広がる対人関係」「養育者－子の不安定な関係が生み出す問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。また、ボウルヴィの考えだけでなく、エリクソンが乳児期の心理社会的危機として設定した「基本的信頼感対不信」を説明に取り入れて発達の最初期の養育者－子相互作用の重要性を強調するのも 1 つの手です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたうえで、関連する部分についても触れてください。「言語の発達」については、「5 章 2」から言語発達の基盤として特に養育者がどのような役割を果たすのかについて説明してください。言語発達と関わる様々な側面の中で「養育者―子相互作用」という課題テーマに関わる部分をうまくまとめることができるかがポイントとなります。

なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者―子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。

■レポート　評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』の「レポート学習」に記載している「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章をほぼそのまま書く」のは「自分な

りの要約」ではなく「引用」となります。また、あくまで課題の中心は「養育者―子相互作用の重要性」を述べることにあります。愛着の発達、言語の発達あるいはそれ以外でも、正しい事柄ではあってもそれが「養育者―子相互作用の重要性」と関連付けて述べられていなければ評価されません。

科目修了試験

■評価基準

１）科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。

２）教科書の内容をしっかり理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。

３）学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して解答におりこむことができると評価が高まります。